

国土交通省

# バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



平成 29 年 1 月



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号  
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL：03-5253-8111（代）

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。





## プログラム

〔平成29年1月13日(金)〕

### ● 選考委員からの講評

13:40～14:05

中央大学 教授	秋山 哲男 氏
日本女子大学 教授	小山 聡子 氏
東洋大学 教授	高橋 儀平 氏
関西福祉科学大学 客員教授	三星 昭宏 氏

### ● 受賞団体から取組内容のプレゼンテーション ～受賞者より～

14:05～15:10

#### 全日本空輸株式会社・ANA ウイングス株式会社

【プロペラ機への搭乗アダプターの開発等、空港・機内・搭乗時の各シーンにおけるバリアフリー化】

ANA グループでは、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック開催を迎えるにあたり、また将来的な高齢化社会を控え、ソフト、ハード両面からバリアフリー化を推進し、すべての利用者が不安・ストレスなく、より快適に飛行機を利用できる環境の整備に努めるべく、利用者の声を参考に、空港や機内における各シーンにおいて、製品開発、導入を進めている。

#### 仙台市

【バリアフリー化された津波避難タワー等による、高齢者・障害者等にも対応した面的避難エリアの実現】

仙台市では、東日本大震災の津波により被害を受けた沿岸部において、津波避難施設を計画的に整備することにより、面的避難エリアの形成を目指している。その計画にあたっては、高齢者や障害者等を「災害時要援護者」と位置づけ、その特性に応じた施設配置やバリアフリー化された施設整備を進めている。

#### 仙台市交通局

【計画段階からの障害当事者参加による、地下鉄車両と駅舎のバリアフリー化】

仙台市交通局では、平成27年12月に新たに開業した地下鉄東西線の整備に当たり、計画段階から障害当事者の参加のもと意見聴取を行い、設計等に反映させている。その結果、車椅子でも介助無しで乗降できるなど、車両と駅舎の双方において最先端のバリアフリー化がなされている。

#### 西日本旅客鉄道株式会社・高槻市

【行政と鉄道事業者等の協同による、駅および周辺施設の面的バリアフリー化のスパイラルアップ】

高槻市では、高齢者・障害者等の当事者の参加のもと、バリアフリー基本構想を作成し、さらにスパイラルアップを行ってきた。本計画のもと、駅や周辺施設の面的バリアフリー化が進められ、特にJR高槻駅では新型ホーム柵が導入される等、先駆的な取組みが行われている。一方、基本構想の策定後毎年開催されている継続協議会等を通じて、障害当事者のニーズにきめ細かく対応した事業も併せて進めている。

### ● 表彰状授与式

15:30～16:00

## 国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第10回となる今回も多く優れた取組みが推薦され、なかでも特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

#### 表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

#### 選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

#### 国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学 教授
小山 聡子	日本女子大学 教授
高橋 儀平	東洋大学 教授
三星 昭宏	関西福祉科学大学 客員教授

#### 第10回受賞者の決定

15候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、4件の受賞者を決定しました。

第10回となる今年度の表彰においては、全国各地から15件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全15件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道・バス・空港といった公共交通や建築物等について、新たな技術開発も含め、意欲的にバリアフリー化を進める取組みが見られます。また、災害・緊急時や観光といった様々なシーンに対応して、ソフト面での支援も含め、きめ細かなバリアフリー化を進める取組みも見られます。

このように、バリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。



秋山 哲男 委員  
(中央大学 教授)



小山 聡子 委員  
(日本女子大学 教授)

「全日本空輸株式会社・ANA ウイングス株式会社」は、すべての人がより快適に飛行機を利用できるよう、カスタマージャーニーの各シーンで有用なハード・ソフトの開発導入をしました。金属探知機で音が鳴らない車椅子モルフ利用による車椅子ユーザーの心理的ストレス解消と保安検査場での時間の短縮、外国人や聴覚障害者とのコミュニケーションをサポートする電子版コミュニケーション支援ボード、そしてプロペラ機とボーディングブリッジを接続するPBBアダプターです。バリアフリーの重要性理解を社内に広げ、現場の気づきを新たな製品に結びつける努力と波及効果を高く評価し、表彰することとしました。

「仙台市」は、東日本大震災の経験から大津波からの避難行動の分析と避難場所の確保を最大の目標として津波避難タワーを計画されました。整備にあたっては、高齢者、障害者、乳幼児連れなど多様な市民の参画を得て避難計画を立案し、建設後も避難訓練を重ねています。また避難タワーは地区住民全員が避難できるよう避難エリア計画ごとに建設が行われ、地域住民の防災意識の向上と安心・安全な生活環境をより強固に構築しています。国内外からの視察も多く今後の波及効果が十分期待できるものであり、表彰することとしました。

「仙台市交通局」は、かねてより「人が輝く杜の都」の創出にむけたバリアフリー化に努めてきました。地下鉄東西線整備では、設計段階において車両モックアップと模擬ホームを用いた車椅子利用者の意見反映を行うなど設計への当事者参加を進めました。その結果ホームと車両間の段差・隙間の縮小、すべての自動改札口の拡幅化などにより経路全てにおいて車椅子利用者の単独通行が可能となりました。その他の障がい者に対しても水準を超える意欲的な取組みを行っており、これらが他に波及することを期待して表彰することとしました。

「西日本旅客鉄道株式会社・高槻市」は、平成15年にバリアフリー基本構想を官民協同で創り上げ、以降継続してバリアフリー化に取り組んでいます。その成果として、鉄道側では、ホームの安全対策のための新型ホーム柵の設置、改札外市有地における電車の発車時刻を示す電光掲示板の整備等を行っています。一方、市においても、駅周辺の様々なバリアフリー化事業、交通安全対策（視覚障害者用信号）を行っています。基本構想に基づく継続的な取組みと、その成果として結実した先駆的な取組みを高く評価し、表彰することとしました。



高橋 儀平 委員  
(東洋大学 教授)



三星 昭宏 委員  
(関西福祉科学大学 客員教授)

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>



選考風景

講評

受賞者は、すべての人がより快適に飛行機を利用できるよう、カスタマージャーニーの各シーンで有用なハード・ソフトの開発導入をした。金属探知機で音が鳴らない車椅子モルフ利用による車椅子ユーザーの心理的ストレス解消と保安検査場での時間の短縮、外国人や聴覚障害者とのコミュニケーションをサポートする電子版コミュニケーション支援ボード、そしてプロペラ機とボーディングブリッジを接続するPBBアダプターである。バリアフリーの重要性理解を社内に広げ、現場の気づきを新たな製品に結びつける努力と波及効果を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

ANAグループでは、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック開催を迎えるにあたり、また将来的な高齢化社会を控え、ソフト、ハード両面からバリアフリー化を推進し、すべての利用者が不安・ストレスなく、より快適に飛行機を利用できる環境の整備に努めるべく、利用者の声を参考に、空港や機内における各シーンにおいて、製品開発、導入を進めている。

● 航空機の搭乗、降機をスムーズ、快適にサポートする「PBBアダプター」の開発

今回開発したアダプターを活用し、ターミナルのPBB\*を接続することで、車椅子利用者はストレスなく、また、雨・風・雪にさらされることがなく搭乗することが可能となる。アダプターに昇降式のエレベーター機能を設置しており、フルフラットの状態で車椅子ごとの搭乗が可能となり、障害のない人同様にスムーズな搭乗・降機が可能となった。

※ PBB：パッセンジャーボーディングブリッジ（搭乗橋）



PBB アダプター



使用シーン

● 搭乗手続きから、保安検査場、機内までの移動を快適にサポートする「樹脂製車椅子 morph（モルフ）」の開発

保安検査場で金属探知機に反応せず、かつ飛行機の座席まで乗ったまま移動できる車椅子であり、空港で樹脂製を採用するのは全国で初めてである。

また、樹脂製であるため、金属の「冷たい」印象を払しょくし、温かみのある丸みを帯びたデザイン、配色が実現できている点は利用者からも好評である。



樹脂製車椅子 morph (モルフ)



使用シーン

● 機内、空港でのコミュニケーションを円滑にサポートする製品開発

アナウンス等での情報が聞き取れず、イレギュラー発生時に不安に感じている耳や言葉に障害のある人、外国人の人等に対して、文字と内容を容易に理解できるピクトグラムの活用と多言語対応により、空港、機内で係員とのコミュニケーションをサポートするツールとして、「電子版コミュニケーション支援ボード」を開発、導入に至った。現在、約9,000台のタブレット端末を空港、機内で活用し、サービスを提供している。



コミュニケーション支援ボードの例



使用シーン

◎ 今後期待される取組み

同社は過去にもユニバーサルな取組みを多く実施しており、今回は製品開発としてのアダプターや車椅子を対象として表彰を実施するが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、今後も全国のモデルとなるような施策の実施を期待する。

喜びの声



全日本空輸株式会社  
代表取締役社長  
篠辺 修 氏

(コメント)

今回、大変名誉な賞をいただき、社員やご支援いただいた方々と一緒に喜びを分かち合いたいと思います。この受賞を大きな励みとして、今後も東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えつつ、世界中のお客様に文化、言語、国籍、年齢、性別、障がいなどあらゆる差がなく旅を楽しんでいただけるよう、ハード、ソフト両面から、ユニバーサルな社会づくりをお手伝いして参りたいと思います。

【受賞者】 全日本空輸株式会社

【連絡先】 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター  
ANA 国内線予約・案内センター  
TEL：0570-029-222  
ANA おからだの不自由な方の相談デスク  
TEL:0120-029-377 / 0570-029-377 (携帯電話)

【活動等の経緯】

- 2013年12月 樹脂製車椅子 morph (モルフ) を株式会社松永製作所様と共同で開発スタート
- 2015年4月 音声発話・筆談機能・多言語機能を備えた「電子コミュニケーション支援ボード」の開発をスタート
- 2016年4月 樹脂製車椅子 morph (モルフ) を羽田空港で導入 (64台)
- 2016年6月 「電子コミュニケーション支援ボード」を機内と空港に導入 (タブレット9,000台)
- 2016年9月 「電子コミュニケーション支援ボード」をアップデート (4言語→17言語)

【Web - URL】 <https://www.ana.co.jp/>



ANA ウィングス株式会社  
代表取締役社長  
泉 弘毅 氏

(コメント)

この度、このような賞を受賞することができ、大変名誉に思っております。社員一同喜んでおります。ANAグループで小型機運航を担うエアラインとして、本件についても、これまで同様にお客様の声に徹底的にこだわり、ハード面のバリアフリー化に取り組んでまいりました。今回共同開発をした、株式会社ナカオ様と共に、試行錯誤を繰り返し、具現化に至ることができました。2020年に向けて、社員一丸となり、引き続き、固定概念に捉われることなく、全てのお客様が快適にご利用いただける環境をめざし、チャレンジを続けていきたいと思っております。

【受賞者】 ANA ウィングス株式会社

【連絡先】 東京都大田区羽田空港 3-3-2

【活動等の経緯】

- 2014年10月 小型プロペラ機をボーディングブリッジと接続する「PBBアダプター」を株式会社ナカオ様と共同で開発スタート
- 2015年4月 松山空港、新千歳空港で「PBBアダプター」を導入
- 2016年9月 青森空港で「PBBアダプター」を追加導入

【Web - URL】 <http://www.anawings.co.jp/>

# バリアフリー化された津波避難タワー等による、高齢者・障害者等にも対応した面的避難エリアの実現

## 講評

受賞者は、東日本大震災の経験から大津波からの避難行動の分析と避難場所の確保を最大の目標として本津波避難タワーを計画した。整備にあたっては、高齢者、障害者、乳幼児連れなど多様な市民の参画を得て避難計画を立案し、建設後も避難訓練を重ねている。また避難タワーは地区住民全員が避難できるよう避難エリア計画ごとに建設が行われ、地域住民の防災意識の向上と安心・安全な生活環境をより強固に構築している。国内外からの視察も多く今後の波及効果が十分期待できるものであり、表彰することとした。

## 受賞者の取組み

### 取組みの概要

仙台市では、東日本大震災の津波により被害を受けた沿岸部において、津波避難施設を計画的に整備することにより、面的避難エリアの形成を目指している。その計画にあたっては、高齢者や障害者等を「災害時要援護者」と位置づけ、その特性に応じた施設配置やバリアフリー化された施設整備を進めている。

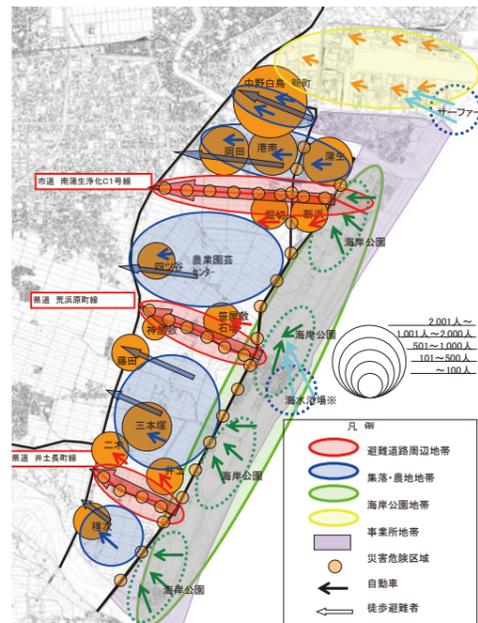
### ●「津波避難施設の整備に関する基本的考え方」の策定

仙台市では、東日本大震災の津波により被害を受けた沿岸部の再生に向けて、地域住民の代表者や津波工学等を専門とする有識者等で構成する検討委員会における審議や、住民説明会等での意見などを踏まえ、平成25年3月に「津波避難施設の整備に関する基本的考え方」を策定した。

この中で避難施設は、集落の位置や人口想定に加え、災害時要援護者等を含めた避難行動も踏まえて配置を考えるとされており、これにより、高齢者・障害者等にも対応した面的避難エリアが形成されることになる。

### ●バリアフリー化された津波避難タワーの整備

「基本的考え方」においては、各施設の整備にあたり、要援護者への配慮として、高所への移動や備蓄について配慮することが定められている。この考え方により、平成27年2月、第1基目となる津波避難タワーが完成した。



避難行動の考え方（「基本的考え方」より）

東日本大震災における寒冷地での避難の教訓も踏まえ、タワー上部には屋内避難スペースを設けており、内部に車椅子対応のトイレ等やベンチを備えるなど、高齢者・障害者等の避難に配慮されている。屋内スペースの上部にも屋外の避難スペースがあり、地上とこれらの空間の間の移動は、階段またはスロープいずれの方法でも可能となっている。



津波避難タワー外観（スロープ側）

### ●地域住民による避難計画づくりと防災意識の啓発

地域ごとの避難計画を住民自らがまち歩きやワークショップを行いながら作成しており、その中で、自力で避難が困難な方の避難方法等についても検討を行っている。

また、地域住民及び小学生等を対象に、車椅子使用者や高齢者等の避難を想定し、実際にスロープも利用した避難訓練を頻繁に実施しており、地域住民の防災意識の向上と共に、災害時要援護者に対する心のバリアフリーの促進にも寄与している。



車椅子でスロープを利用する様子



津波警報発表時に使われた屋内避難スペース

### ◎ 今後期待される取組み

今後、障害当事者を含めた総合的な避難訓練を行うなど、実際に利用する中で避難施設の検証を進め、設備やコスト面においてさらに改良を加え、全国的にも普及するモデルの一つを作り上げていくことが期待される。

## 喜びの声



仙台市

仙台市長 奥山 恵美子 氏

### 【コメント】

東日本大震災の教訓から、あらゆる人がより早く、確実に津波から避難できることを目的に寒さ対策やスロープ設置等避難環境に配慮した津波避難施設の整備に取り組んできました。今回、名誉ある賞を賜り感謝申し上げますとともに、ご協力いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。今後とも市民の皆様の安全・安心のために尽くしてまいります。

### 【受賞者】

仙台市

### 【連絡先】

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号  
(危機管理室防災計画課)

電話 022-214-3047 / Fax 022-214-8096

### 【活動等の経緯】

- 平成23年3月 東日本大震災発生
- 平成23年11月 仙台市復興計画策定
- 平成24年6月 避難施設の整備に関する検討委員会設置
- 平成25年3月 「津波避難施設の整備に関する基本的考え方」策定
- 平成27年2月 第1基目 中野五丁目津波避難タワー完成
- 平成27年3月 国連防災世界会議スタディーツアーで紹介  
津波避難屋外階段2カ所完成
- 平成28年4月～12月 津波避難タワー計5カ所完成
- 平成29年1月～3月 津波避難ビル（消防団施設併設）5カ所完成予定

### 【Web - URL】

<http://www.city.sendai.jp/hinan/kurashi/zenzen/saigaitaisaku/torikumi/hinan/sebi.html>

### ○津波避難タワー仕様

#### 外部との連絡手段の確保

避難時に仙台市の災害対策本部等と連絡が取れるよう、防災行政用無線機器を設置している。

#### 防寒・防風対策

防寒、防風対策として、外壁で囲った避難スペースを確保。また、毛布やカセットガスストーブを備蓄している。



#### 夜間停電時対策

夜間停電時にも避難がしやすいよう、屋上に太陽光発電柱を設置し、階段、スロープ、屋上を照らしている。また、カセットガス式発電機、LED投光器を備蓄している。

#### 車椅子等での避難者対応

車椅子等での避難に配慮し、スロープを設置している。



## 講評

受賞者は、かねてより「人が輝く杜の都」の創出にむけたバリアフリー化に努めてきた。地下鉄東西線整備では、設計段階において車両モックアップと模擬ホームを用いた車椅子利用者の意見反映を行うなど設計への当事者参加を進め、その結果ホームと車両間の段差・隙間の縮小、すべての自動改札口の拡幅化などにより経路全てにおいて車椅子利用者の単独通行が可能となった。その他の障がい者に対しても水準を超える意欲的な取組みを行っており、これらが他に波及することを期待して表彰することとした。

## 受賞者の取組み

### 取組みの概要

仙台市交通局では、平成 27 年 12 月に新たに開業した地下鉄東西線の整備に当たり、計画段階から障害当事者の参加のもと意見聴取を行い、設計等に反映させている。その結果、車椅子でも介助無しで乗降できるなど、車両と駅舎の双方において最先端のバリアフリー化がなされている。

### ● 計画段階からの障害当事者参加

仙台市交通局では、地下鉄東西線の建設に当たり、仙台市と協調して様々な障害者団体との意見交換会を開催し、実際に利用する障害者が期待するバリアフリー設備について意見を聴取し、車両や駅施設の設計に反映させている。さらに、バリアフリー設備の設計方針が固まった段階で、車両と模擬プラットホームの実物大のモックアップを作成し、乗降のしやすさや車椅子スペース等、障害者に体験してもらいながら意見聴取を行い、実施設計に反映させ、さらに実効性の高い施設整備を行っている。

なお、車両製作や駅施設の工事が完了した時点でも、障害者を対象としたバリアフリー設備説明会を行い、聴取した意見に対し、開業までの間に可能な限りの対応を行っている。



障害者団体と交通局の意見交換会



モックアップを使った隙間、段差の確認

### ● 車椅子利用者も介助なしで乗降できる車両

駅係員の介助無しに車両に乗降したいという車椅子利用者の声や、各駅 2 名配置となる駅係員の負担も考慮し、東西線では、車椅子利用者の介助なしでの乗降を実現している。プラットホームと車両床の高さの差を 1cm 程度とし、さらにホーム縁端に合成樹脂製の隙間調整材を設置することにより、段差を 2cm、隙間を 3cm 程度に抑えている。

また、障害者団体から 1 列車につき複数の車椅子スペースを設置して欲しいという要望や、ベビーカーの利用が拡大していることも踏まえ、全ての車両にフリースペースを設置している。モックアップによる意見聴取時の要望を踏まえ、二段手すりに加え、縦手すりを設置するなど工夫も行っている。



車椅子利用者単独で車両に乗降する様子



車椅子、ベビーカー用フリースペース

### ● 車両や改札外とも連続した駅舎のバリアフリー化

東西線では、列車のどの車両にも車椅子での利用が想定されることから、ホームの一番狭い部分でも 1.5m の幅を確保し、車椅子と歩行者がすれ違うことができるようにしている。また、全ての自動改札口が 90cm の幅で統一されており、車椅子利用者だけでなく、ベビーカーやキャリーバッグ利用者にも利用しやすいとなっている。

通常改札内に設置することが多いトイレも、東西線では改札の外に配置し、より多くの人が使えよう工夫している。各トイレには、複数の多機能トイレを設置しているが、使用中の待ち時間解消だけでなく、右まひ・左まひのそれぞれの障害に対応して、手すりの位置等を左右対称に設置している。



全てが幅広の自動改札口



左勝手、右手の両方が設置された多機能トイレ

### ◎ 今後期待される取組み

仙台市交通局では東西線その他、昭和 62 年に開業した南北線を抱えており、整備時期の違いから、バリアフリー化の状況に大きな差が生じている。交通局では、仙台市バリアフリー基本構想に基づく特定事業計画を定め、南北線についても全駅にホームドアを設置するなど取組みを進めているが、今後東西線の開業によって得られた知見も活用し、より一層バリアフリー化を推進していくことが期待される。

## 喜びの声



仙台市交通局 (地下鉄東西線建設事業)  
交通事業管理者 西城 正美 氏

### 【コメント】

このたびは、仙台市地下鉄東西線バリアフリー化の取組みに対し名誉ある賞をいただき心より感謝申し上げます。

地下鉄東西線の建設では障がい者の方々と共に考え、また、まちづくり部局とも協調し、まちのバリアフリーの中核施設として、実効性のより高いバリアフリー施設整備を行ったことを高く評価いただいたものと思っております。

今後ともすべての市民の皆様様に安全にそして、安心してご利用いただける地下鉄を目指し更なるバリアフリー化を進めてまいります。

### 【受賞者】

仙台市交通局 (地下鉄東西線建設事業)

### 【連絡先】

宮城県仙台市若林区荒井字矢取東 46-1  
(仙台市交通局鉄道技術部建築設備課)  
TEL 022-290-9853

### 【活動等の経緯】

- 平成 22 年 10 月 車両・駅施設のバリアフリーに関する意見交換会  
障害者団体との意見交換。以降 3 回実施
- 平成 25 年 7 月 車両・ホームのモックアップによるバリアフリー設備説明会
- 平成 26 年 10 月 東西線用車両第 1 編成搬入  
市民内覧会
- 平成 26 年 12 月 駅舎市民見学会 (国際センター駅)  
公募などによる駅舎利用体験。以後、全 13 駅で実施。
- 平成 27 年 3 月 まちづくり部局とともに「仙台市歩行者系案内誘導サイン等基本方針」及び「庁内調整に関する要綱」を策定
- 平成 27 年 9 月 障害者を対象に列車と駅のバリアフリー設備を実地体験。障害ごとに延べ 3 回実施。意見により開業までにサイン等の設備改善。

平成 27 年 12 月 地下鉄東西線開業  
開業後もお客様からのご意見・ご提案によりバリアフリー設備の改善を継続している。

### 【Web - URL】

<http://www.kotsu.city.sendai.jp/>

講評

受賞者は、平成15年にバリアフリー基本構想を官民協同で創り上げ、以降継続してバリアフリー化に取り組んでいる。その成果として、鉄道側では、ホームの安全対策のための新型ホーム柵の設置、改札外市有地における電車の発車時刻を示す電光掲示板の整備等を行っている。一方、市においても、駅周辺の様々なバリアフリー化事業、交通安全対策（視覚障害者用信号）を行っている。基本構想に基づく継続的な取組みと、その成果として結実した先駆的な取組みを高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

高槻市では、高齢者・障害者等の当事者の参加のもと、バリアフリー基本構想を作成し、さらにスパイラルアップを行ってきた。本計画のもと、駅や周辺施設の面的バリアフリー化が進められ、特にJR高槻駅では新型ホーム柵が導入される等、先駆的な取組みが行われている。一方、基本構想の策定後毎年開催されている継続協議会等を通じて、障害当事者のニーズにきめ細かく対応した事業も併せて進めている。

バリアフリー基本構想のスパイラルアップ

高槻市では、平成15年に「高槻市交通バリアフリー基本構想」（旧構想）を策定し、市内鉄道駅やその周辺のバリアフリー整備を継続的に進めてきた。平成18年にバリアフリー新法が施行されてからは、旧構想の目標年次を平成22年に迎えたことや、多様化する市民ニーズに応えるため、平成23年、高齢者・障害者等の当事者を含む多くの市民参加のもと、新法に基づく「高槻市バリアフリー基本構想」（新構想）を策定した。

新構想の基本理念は「人にやさしいまち、人がやさしいまち」であり、その実現のため、まちのバリアフリー化を進めるとともに、新法で新たに規定された心のバリアフリーについても積極的に取組み、ハード・ソフトの両面から一体的かつ継続的にバリアフリー事業を推進している。

JR高槻駅と周辺施設の面的整備



JR高槻駅は、利用者数の多さに比べホームが狭く、ホームからの転落事故やラッシュ時の混雑等の解消が長年の課題であり、平成18年度にJR西日本・国・大阪府・高槻市からなる連絡調整会議を設置し、課題解決に向けて検討を重ねた結果、新たに新快速・特急専用ホームを整備することとなった。



新型ホームドア

新ホームには障害者等から長年要望のあったホーム柵が設置されることになったが、異なるドア数の車両が停車する高槻駅では、従来のホームドア設置は困難であった。JR西日本は新型の昇降式ホーム柵を開発し、平成28年3月に実用導入の第1号として新ホームに設置した。

また、新ホームの西端にはスロープでアクセスできる新たな改札口が整備され、これにより複数のバリアフリールートが確保された。新たな改札前においては、既存道路を歩行者専用道路化する等、歩行空間の整備がなされるとともに、市有地に電車の発車時刻を示す電光掲示板を設置したり、信号に視認性の高いLED付音響装置を併設するなど、先駆的な取組みを進めている。

ソフト事業の推進

高槻市では、旧構想の策定された平成15年度以降、毎年度「バリアフリー基本構想継続協議会」を継続して開催している。交通事業者、市民、学識経験者、行政等が一堂に会すバリアフリー会議であり、多様な主体が一丸となって取り組むことで、歩行者案内標識サインや音声案内装置の設置等、当事者ニーズに合致した整備を推進している。



協議会の様子



おでかけMAP記載事項 (一部抜粋)

また、高槻駅周辺のバリアフリー情報の提供ツールとして、「高槻駅周辺『おでかけMAP』」を作成・配布している。公共施設だけでなく飲食・商業施設も対象とし、入口幅・段差の有無・トイレ情報等を具体的に掲載しており、道路のバリア情報を含めて事前に知ることができ、誰もが安心して外出できる環境づくりに寄与している。

今後期待される取組み

今後、バリアフリー基本構想に基づく継続的な取組みをさらに推進していくとともに、新型ホーム柵等の先駆的な取組みについて検証を行うことにより、全国的なモデルとして参照される事例となることが期待される。

喜びの声



西日本旅客鉄道株式会社  
社長  
来島 達夫 氏

(コメント)

この度は大変名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。弊社は安全レベルを着実に向上させるための具体的計画として「安全考動計画2017」を策定し、ホーム上の安全対策として「ホーム上における鉄道人身障害事故3割減」を掲げております。これからも今回の受賞を励みとして、より安全にお客様へ駅をご利用していただく鉄道を目指して努力してまいります。

【受賞者】 西日本旅客鉄道株式会社

【連絡先】 大阪府大阪市北区芝田二丁目4番24号

【活動等の経緯】

- 平成18年 高槻市と西日本旅客鉄道株式会社がホーム上の安全対策についての検討開始。
- 平成23年 異なる扉枚数の列車や編成車両数の異なる列車にも対応可能な「昇降式ホーム柵」の技術開発に着手。
- 平成25年 「安全考動計画2017」を策定し、「ホーム上における鉄道人身障害事故3割減」を掲げ、高槻市とともに高槻駅のホーム改良の事業化を決定。桜島駅で「昇降式ホーム柵」の試験運用を開始。
- 平成26年 六甲道駅で「昇降式ホーム柵」の試験運用を開始。
- 平成28年3月 高槻駅で「昇降式ホーム柵」を設置した新ホーム供用開始。

【Web - URL】 <http://www.westjr.co.jp/>



高槻市  
高槻市長  
濱田 剛史 氏

(コメント)

この度は、名誉ある賞をいただき大変光栄に思っております。今回の受賞では、JR西日本様による管内本格導入初となる昇降式ホーム柵をはじめとしたJR高槻駅・駅周辺での官民連携したハード整備と、平成15年度から一貫して継続してきたソフト施策の取組みが評価されたものと考えております。今後も、この賞を励みに、誰もが安全・安心に暮らせるまちを目指し、バリアフリーを推進してまいります。

【受賞者】 高槻市

【連絡先】 大阪府高槻市桃園町2番1号  
TEL: 072-674-7552 (都市創造部都市づくり推進課)

【活動等の経緯】

- 平成15年5月 高槻市交通バリアフリー基本構想策定以降、毎年協議会を開催
- 平成19年度 小学校へのバリアフリー学習を開始
- 平成23年9月 高槻市バリアフリー基本構想策定
- 平成20～26年度 JR高槻駅北東地区におけるバリアフリー整備
- 平成21～28年度 JR高槻駅南駅前広場の改良 (EV、ESC設置など)
- 平成25～27年度 JR高槻駅ホーム拡充及び関連事業
- 平成27年度 バリアフリーマップ作成

【Web - URL】 <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/>